

資料2 第3回検討委員会での意見（委員会後の提出含む）

※ひとつの意見の中に複数のキーワードがあった場合は、それぞれのキーワードで再掲しました。

①検討委員会での評価のとりまとめ・報告方法について

⇒ 資料-4

発言通し 番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後 の意見
13	大まかな評価しかできない経済性は、現時点では項目から削除すべきである。	
16	現在地と他の候補地の一律評価は難しいので、一次評価を候補地のみ、二次評価を候補地の中の1番と現在地とし、横綱対決としての二次評価の時点で経済性の評価を入れるのはどうか。	
17	候補地の中の1番、2番を先に決めた後、現在地と比較する横綱対決がよいのではないか。	
18	検討地と現在地は同列で評価してほしい。	
25	各構成市町村負担金は、事業費が負担金に跳ね返ってくるのは当然であり、計算できない現状では削除すべきである。	後
27	比較検討の方法について、横綱対決は現在地ありきの検討となるため、再度検討すべきである。	後
28	比較検討の方法について、現在地ありきでは市民・市議会等の理解が得られないため、検討地と現在地は同列で評価してほしい。具体的には、現在地ありきとなる経済性、用地取得、建設スケジュールを除き、現在地を含めた6箇所を1次評価をし、3箇所程度に絞った時点でコストを含めた2次評価をしてはどうか。	後

②評価方法(重み付け)

発言通し 番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後 の意見
1	コストについては重み付けの対象とすべきである。	
5	重み付けをどこでつけるかによって、どのような違いが出てくるのか。	
6	重み付けは細項目で行うべきである。	
19	重み付けは細目がよい。ただしダブルカウントへの注意が必要である。	
38	重み付けについては、個別重みがよい。	後
40	重み付けはなるべく簡素化した方がよい。基本的には個別重みがよい。	後

③コスト、経済性について

発言通し番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の意見
12	一般事項の敷地面積、土地の形状、地盤の状況、自然環境の水源等は、最終的にはコストに影響してくるものであり、評価の仕方によっては経済性とダブルカウントになる可能性があるため、評価項目の区分けには注意しなければならない。	
13	大まかな評価しかできない経済性は、現時点では項目から削除すべきである。	
15	経済性は構成市町村にとっては最も重要なファクターである。	
16	現在地と他の候補地の一律評価は難しいので、一次評価を候補地のみ、二次評価を候補地の中の1番と現在地とし、横綱対決としての二次評価の時点で経済性の評価を入れるのはどうか。	
20	道路の整備が必要となった時、施設外の道路の分は誰が負担して、経済性の評価に入るのか。	
28	比較検討の方法について、現在地ありきでは市民・市議会等の理解が得られないため、検討地と現在地は同列で評価してほしい。具体的には、現在地ありきとなる経済性、用地取得、建設スケジュールを除き、現在地を含めた6箇所での1次評価をし、3箇所程度に絞った時点でコストを含めた2次評価をしてはどうか。	後
36	22番市町村負担金については、建設費と重複するので外すべきではないか。	後

④余熱利用について

発言通し番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の意見
8	温暖化に対する削減効果として、余熱利用も重要ではないか。	
10	余熱利用については、焼却施設を発電施設にすることと、周辺に発生した余熱を利用できる施設があるかということの2つを評価する必要がある。	
14	場所の選定であるので、余熱利用施設を造るか造らないかは、今考える必要はないのではないか。	
33	19番余熱利用については、現在地の評価が高くなるため削除、あるいは入れるにしても重みを小さくするべきではないか。	後
34	20-4番余熱利用施設については、現在地の評価が高くなるため削除、あるいは入れるにしても重みを小さくするべきではないか。	後

⑤駅からの距離、景観への配慮、街づくり、煙突など

発言通し番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の意見
7	駅からの距離と景観への配慮は別なものなので、別項目にするか、あるいは排除すべきである。	
9	街づくりの観点、景観への配慮から、駅から近い場所には造るべきではないので、評価項目の中に入れるべきである。別項目としてもよい。	
23	煙突が景観を損ねると考えるのであれば、景観への配慮は場所がどこであっても必要。得点化も難しい。また、駅からの距離は、駅から近くにあってはいけない理由が不明。そのため、この2つは評価項目から削除、少なくとも別細目とするべきである。	後
30	景観への配慮、駅からの距離については、まちづくりの観点から各細目に分けて評価項目に入れるべきである。	後

⑥ダブルカウント

発言通し 番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の 意見
12	一般事項の敷地面積、土地の形状、地盤の状況、自然環境の水源等は、最終的にはコストに影響してくるものであり、評価の仕方によっては経済性とダブルカウントになる可能性があるため、評価項目の区分けには注意しなければならない。	
19	重み付けは細目がよい。ただしダブルカウントへの注意が必要である。	
39	ダブルカウントに気をつけるべき。土地の形状、地盤の状況、住宅等の密集度、用地費等は相互の相関性が高い。	後

⑦インフラ整備関連

発言通し 番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の 意見
11	送電線や下水道等インフラの整備状況によっても違いが出るので、その辺りをきちんと評価するべきである。	
20	道路の整備が必要となった時、施設外の道路の分は誰が負担して、経済性の評価に入るのか。	

⑧歩行者と車両の分離状況、その他

発言通し 番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の 意見
31	18-1 番歩行者と車両の分離状況については、場所の立地条件によっては必ずしも分離が必要にはならないので、削除しても良いのでは。	後
32	18-4 番その他については、「施設の出入りに支障があるか」の項目に変更する。	後

⑨用地費

発言通し 番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の 意見
35	21 番用地費については、現在地の評価が高くなるため削除、あるいは入れるにしても重みを小さくするべきではないか。	後
24	用地費は現在地との比較ができないため、情報としては別途整理しておいても、評価項目からは削除すべきである。	後

⑩構成市町村負担金

発言通し 番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の 意見
25	各構成市町村負担金は、事業費が負担金に跳ね返ってくるのは当然であり、計算できない現状では削除すべきである。	後
36	22 番市町村負担金については、建設費と重複するので外すべきではないか。	後

⑪建設スケジュール、合意形成等

発言通し番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の意見
26	地権者、合意形成、建設スケジュール、地元対策の必要性については、見込みや度合いで評価することは危険であるため、情報としては別途整理しておいても、評価項目からは削除すべきである。	後
28	比較検討の方法について、現在地ありきでは市民・市議会等の理解が得られないため、検討地と現在地は同列で評価してほしい。具体的には、現在地ありきとなる経済性、用地取得、建設スケジュールを除き、現在地を含めた6箇所を1次評価をし、3箇所程度に絞った時点でコストを含めた2次評価をしてはどうか。	後
37	24番合意形成については、現時点ではできていないため外すべきではないか。	後

⑫自然環境、生物多様性、水源

発言通し番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の意見
41	自然環境の細目数が極端に少ないので増やすべきである。※細目例の提示あり	後
3	生物多様性を評価項目の中に入れるべきである。	
4	生物多様性は別項目とするべきである。	
21	水源等について、現在地はニュータウンができたために湧き水がなくなっており、雨水の浸透等の観点も必要である。	

⑬地球温暖化

発言通し番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の意見
2	温暖化に対する削減効果を評価項目の中に入れるべきである。	
8	温暖化に対する削減効果として、余熱利用も重要ではないか。	

⑭項目の削除について

発言通し番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の意見
22	委員会で削除すべきとの意見が出た項目については、削除したたたき台を次回委員会で提出してほしい。	

⑮他市との距離

発言通し番号	質疑及び寄せられた意見	委員会後の意見
29	11番他市との距離は、いずれの検討地も構成市町村以外の他市と離れているため、削除しても良いのでは。	後

■委員会後提出意見（その他）

<p>比較検討地について</p>	<p>比較検討地について、少なくとも次の点について次回の検討委員会で提示してほしい。</p> <p>①各検討地の抽出理由                  ②印西市の検討地が2つある理由                  ③比較検討地の敷地面積                  ④比較検討地の形状                  ⑤比較検討地の土地所有者名                  ⑥比較検討地の現在の使用状況                  ⑦比較検討地の土地所有者の意向                  ⑧比較検討地の排煙の着地濃度が最大になるエリアの状況（仮に煙突の高さを130mとした時）</p>
<p>リサイクルセンターの基本計画（コンセプト）</p>	<p>検討地評価に影響を与えると考えられるリサイクルセンターの基本計画（コンセプト）を明らかにすべきである。</p> <p>・資料 5-3 のとおり、リサイクルセンターがプラザと情報発信拠点や啓発・展示の充実の場となるならば、交通の便がよい場所を選定すべき。私は、プラザに「不用品の交換、販売場所、自転車や家具などの再生・工作所、環境学習場所」などの機能を持たせ、運営は住民・市民団体に委託すべきと考える。</p>
<p>スケジュール</p>	<p>比較検討地の絞込みと現在地更新との比較検討を今年度中に行うスケジュールには無理があるため、1年程度延長すべきである。</p> <p>・国の廃棄物処理施設長寿命化計画                  ・1・2号炉の使用年数は1年くらい延ばせる（資料4 老朽化調査でも耐用年数が35年と出ている）</p>
<p>焼却施設の「処理方式の絞込み」</p>	<p>次期中間処理施設基本計画の策定の焼却施設の技術調査のうち「処理方式の絞込み」は、どのような処理方式を対象にするか明らかにすべきである。</p> <p>・現在日本で稼働中の焼却施設のタイプを全て挙げ、実績も踏まえて比較検討すべき                  ・最初からストーカ炉に固執するのはよくない</p>
<p>次期焼却施設の施設規模</p>	<p>次期焼却施設の施設規模を見直すべきである。</p> <p>・平成27年度の資源物を除いた家庭系ごみの削減目標値を、平成21年10月ですでに達成している                  ・有料化の採用や紙類、生ごみの資源化によってまだまだ減量が可能</p>
<p>比較検討地の現地視察</p>	<p>比較検討地の現地視察には希望する検討委員も参加させてほしい。</p>